

令和4年度「みらいの学び推進事業」実践モデル校 【遠隔授業事例集】



【マレーシアとの遠隔授業】

阿久根市立脇本小学校



1 遠隔授業の学習形態

教室全体でつなぐ接続形態

- **【教室—教室接続型】**
⇒ 教室同士をつなぐ
- **【講師—教室接続型】**
⇒ 講師と教室をつなぐ

個々の児童生徒・グループ単位でつなぐ学習形態

- **【学習者—学習者接続型】**
⇒ 児童生徒が児童生徒とつながる
- **【講師—学習者接続型】**
⇒ 児童生徒が講師と個別につながる

2 遠隔授業の実践例

【教室—教室接続型】

- (1) 学校行事「児童総会」での遠隔授業（3～6年）
- (2) 社会科「あたたかい土地の暮らし」による遠隔授業（5年）
- (3) オンライン連携姉妹校「北海道えりも小学校」との遠隔授業（3年，4年）
- (4) 総合的な学習の時間「伊作小学校とのウミガメ交流」の遠隔授業（3年）

【講師—教室接続型】

- (5) 総合的な学習の時間YouTubeのライブ配信を活用した遠隔授業（6年）
- (6) 社会科「『TOYOTA』オンライン工場見学」の遠隔授業（5年）
- (7) 学級活動「SOSの出し方教育」の遠隔授業（6年）
- (8) 保健「がん教育総合支援事業における取組」の遠隔授業（6年）
- (9) 総合的な学習の時間「マレーシアについて知ろう」の遠隔授業（4年）

【学習者—学習者接続型】

- (10) 家庭科「クリーン大作戦」の遠隔授業（6年）

【講師—学習者接続型】

- (11) 欠席者の学習支援のための遠隔授業（5年）

(1)-1 学校行事「児童総会」での遠隔授業（3～6年）

ねらい： 議題について話し合い，議論する活動を通して思考を活性化し，自分の思考を深める。

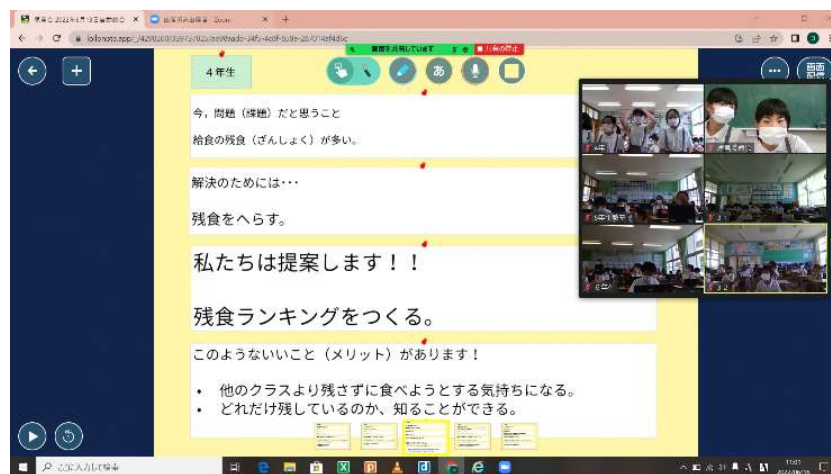
【教室—教室接続型】

- Web会議サービス「Zoom」の活用
- 運営委員会（司会進行）を親機として，各教室から配信を受けながら発表を行う「教室—教室接続型」の遠隔合同学習
- 各学年の発表の順番までは発表を聞き，自学年の順番になると教室からカメラに向けて発表を行う。
- 意見・質問についても教室から可能



発表者はこのようにカメラの前へ移動
⇒ 参加者全員へ向けて発表

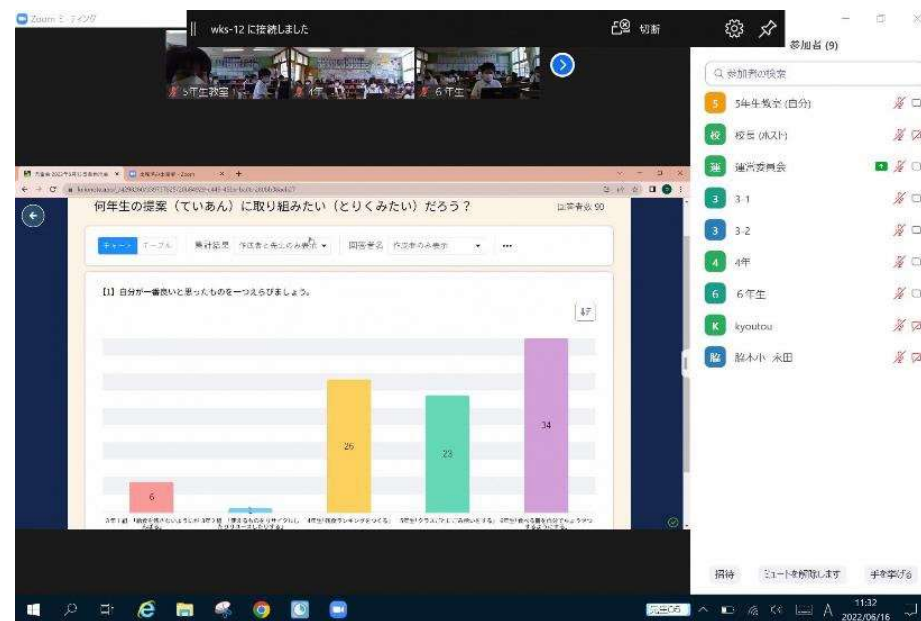
テレビには右のような「ロイロノート」で事前に作成した資料を画面共有で提示



(1)-2 学校行事「児童総会」での遠隔授業

【教室一教室接続型】

- 提案を決定する際は「ロイロノート」のアンケート機能を活用し、その場で参加している全児童が投票、そしてリアルタイムで集計し、その場で採用案を発表した。
- 一箇所に集まることなく、教室にいながら様々な学年の発表を聞くことができた。



アンケートの様子



運営委員会がホストとなり、各学級に配信
担当教諭がサポート

(2) 社会科「あたたかい土地の暮らし」による 遠隔授業（北海道えりも小学校）（5年）

ねらい： 寒い土地の暮らしの実状を知り、理解を深める。
相手意識を明確にして、調べたことを発表・説明することができる。

【教室—教室
接続型】

- ・ 暖かい土地と寒い土地について、選択して学習する単元 ⇒ 本校は暖かい土地を選択
⇒ お互いの学校の暮らしや地域の特徴について質問し、発表し合う「教室—教室接続型」
- ・ 事前に質問を考え、相手と交換
⇒ 相手の質問内容を児童に伝え、子供に返答を考えさせる。
⇒ どのように伝えることで、相手に伝わりやすくなるか試行錯誤させる。
- 児童の興味・関心を通常の授業以上に喚起することができた。
- 分かりやすく伝えようと試行錯誤することで表現力を高めることができた。



北海道と
リアルタイムで
接続している

発表は
カメラの
前で行う



(3) オンライン連携姉妹校

【教室—教室接続型】

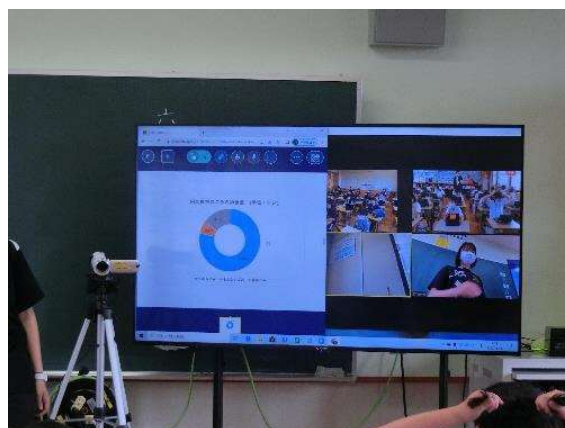
「北海道えりも町立えりも小学校」との遠隔授業

3年生

4年生（社会科）

ごみの処理と利用

自己紹介をし合う



えりも町と阿久根市のごみの量を比べ、
違いなど気付いたことを発表し合う。

(4) 総合的な学習の時間「日置市立伊作小学校とのウミガメ交流」の遠隔授業（3年）

【教室—教室接続型】

- お互いに自分たちが学んだことを発表しあう合同授業
- 3年生（脇本小）と4年生（伊作小）との異学年交流
- 伊作小はウミガメに関するクイズを出題
- 脇本小は海岸清掃やウミガメの講話から学習したことを発表
- ウミガメについて学習している他者を知り、知見が広がった。
- ウミガメ保護の活動を、より頑張ろうという意欲の向上にもつながった。



画面を共有し、伊作小に発表する様子

伊作小は「タマゴから育てる」という学習をしていることを学んだ。



(5) 総合的な学習の時間YouTubeのライブ配信を活用した遠隔授業「教室から深海探査につながろう！」(6年)

【講師一教室接続型】

ねらい : SDGs 14「海の豊かさを守ろう」への関心を高める。
教員だけでは難しい専門的な内容について講義してもらうことで、児童の興味・関心を一層高める。

- ・ 事前にロイロノートにワークシートの大枠を作成 ⇒ 当日は皆で書き込む(共有ノート)
 - ・ 教師PCをテレビに投影し、専門家の話をリアルタイムで学習する「講師一教室接続型」の遠隔教育
 - ・ 同時授業に合わせてGoogle formsで質問に回答する ⇒ 結果が即時反映
 - ・ 授業終了後は質問を送り、後日回答をいただく。
 - ・ 事前に授業内容について簡単に調べ活動を行い理解を深めた。
- 事後も学んだことをまとめたり、質問ブースをのぞいたりするなど関心の高まりがみられた。

学習内容の一部を学習発表会で活用し発表した
⇒ 学びを「生かす」



ライブ配信を受けながら
Google forms で質問に答えている
結果がリアルタイムで表示



(6) 社会科「企業とのタイアップ『TOYOTA』オンライン工場見学」（5年）

【講師—教室接続型】

- TOYOTAの自動車工場をオンラインで見学
- 教師のPCをディスプレイに投影し、専門家の話を聞いたり、現場の様子を見たりする「講師—教室接続型」
- 工場の様子や作業の工夫を画面越しに間近で見ることができる。
- 実際のエンジニアに話を聞いたり、質問したりすることで、よりリアルな学びにつながった。

カメラに向けて質問を行い、その場で答えてもらった。



(7) 学級活動「SOSの出し方教育」の遠隔授業（6年）

【講師一教室接続型】

- 講師に高橋聡美先生を招へい
- 離れた場所からオンラインで講師の指導を受ける「講師一教室接続型」
- テレビ越しに指示を受け、実際に体を動かすなどの活動も取り入れながら、SOSの出し方について学んだ。
- 「皆が良いところをもっている」ことを学び、自己肯定感の向上につながった。

他己紹介を通して、新たな自分を発見することができた。

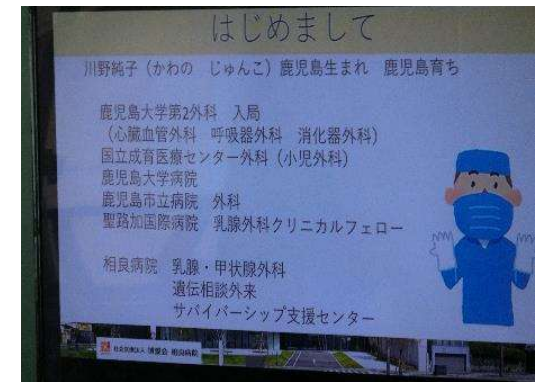
画面共有していたきながら、同時に活動している。



(8) 保健「がん教育総合支援事業」 の遠隔授業（6年）

【講師—教室接続型】

- ・ 医療関係者の派遣を要請（県教委保健体育課と連携）
- ・ 離れた場所からオンラインで講師の指導を受ける「講師—教室接続型」の遠隔授業
- ・ 病院の様子を聞いたり実際の映像を見たりすることで、がんへの理解を深め、キャリア教育にもつながった。



画面越しに
専門家から指
示を受け、学
習を進めてい
く。



(9) 総合的な学習の時間「マレーシアについて知ろう」 の遠隔授業（4年）

【講師—教室接続型】

- クアラルンプール日本人学校（マレーシア）の先生からマレーシアの文化や自然について学ぶ授業
- 脇本小や阿久根市のことを講師の先生に簡単に説明する。
- マレーシアの街の写真を見て、日本と似ているところや違うところを考える。
- 日本人学校の存在やそこに通う子供たちの様子を教えてもらう。
- 外国のことをもっと知ろうという意欲の向上につながった。



マレーシア
の高層ビルに
驚く子供たち。
日本との共
通点や相違点
を見つける。



(10) 家庭科「クリーン大作戦」の遠隔授業（6年）

ねらい : 清掃の仕方を理解し、適切な掃除の仕方を考え、協働的に工夫しながら掃除できる。
ICT機器を活用した交流を通して、学習意欲や相手意識を高める。

【学習者—学習者
接続型】

- △ 場所が班ごとに異なる。
- △ 状況把握が困難である。
- △ 一斉の指示が難しい。

【学習者—学習者接続型】

- ・ 各班一人の連絡係を設定する。
- ・ 掃除の状況を報告し合う。
- お互いの状況を確認できる。
- 教師からの連絡を受けられる。

離れた場所
をつなぐ



教師は教室から
も指示が可能

(11) 欠席した児童の学習支援のための遠隔授業

【講師—学習者接続型】

- やむを得ず欠席した児童が、授業に参加できる取組
- 主に高学年で行った「端末の持ち帰り」を活用しGoogle For Educationから「GoogleMeet」（テレビ会議）を活用
- 自宅にいながら、他の児童と同じように学習に取り組むことができた。



算数科では、板書を中心に授業の様子を配信することで、欠席児童の進度のずれを防ぐことができた。

家庭科の調理実習では、班がどのような活動をしているか配信することで、参観という形で関わられるようにした。



3 遠隔授業の成果と課題

【成果】

- (1) 最先端の知見を専門家から教室の枠を越えて学ぶことができる。
- (2) 協働作業を行いながら、相手の考えをすぐに知ることができる。
⇒ 児童の思考をサポート，学び合い，効率化
- (3) 交流相手を強く意識することで，聞き方・伝え方のスキルが育つ。
(画面外へ向けた相手意識)
- (4) 教児ともにICT活用能力のスキルアップが図られた。
- (5) 欠席児童の学習支援が可能になる。

【課題】

- (1) 遠隔授業を実施できる環境の設定（物的・人的環境）が必要である。
- (2) ICTを文房具として児童が日常的に活用するには，ICTの必然性を高める授業づくりが必要である。
- (3) 交流相手との授業準備の時間の確保が必要である。
- (4) 遠隔授業の年間指導計画への組み込み方を工夫する必要がある。
⇒ カリキュラム・マネジメントの視点
- (5) ICT活用の学級や学校の格差をなくす取組が必要である。